

空知信用金庫・苫小牧信用金庫・旭川信用金庫

次世代基幹勘定系システムSBI²¹による「勘定系アウトソーシング・システム」稼働

北海道内の札幌、室蘭、空知、苫小牧、旭川の5信用金庫が、日本ユニシスに全面的にアウトソーシングした勘定系システムが本年1月6日より稼働を開始した。

このアウトソーシング・システムは、各信用金庫の独自性を維持しながらシステム対応力の強化やコスト削減を可能とするもので、加速する金融環境変化への新たなシステム化対応の道を拓くものとして注目される。

金融環境の激変に伴い、システム対応力の強化が大きな課題に

金融機関は、ビッグバンに象徴される自由化の進展により大競争時代を迎えている。自由化対応のために基幹勘定系システムは大幅な修正と改造を余儀なくされ、システムの肥大化・複雑化も招いている。加えて、キーとなる要員の継続的な育成問題、開発・保守マンパワーの強化などが深刻な課題となっている。また、勘定系システムを保有する上で、障害対応はもちろん、免震構造など最新基準を満たした安全対策も大きな課題となっている。

これまで自言でオンライン化を進めてきた札幌・室蘭・空知・苫小牧・旭川の道内5信用金庫も例外ではなく、こうした課題にいかに対処すべきかを模索してきた。その解決策として、日本ユニシスに次期勘定系システムの開発から保守・運用までを全面的にアウトソーシングする道を選択した。5金庫がアウトソーシングに踏み切った背景には、

5金庫はそれぞれホスト・コンピュー

タの更改時期にきており、システムのレベルアップの必要性があったこと
5金庫は単独自言オンライン金庫であり、日本ユニシスの勘定系システム・パッケージを活用していたこと
金融機関を取り巻く環境の変化や顧客ニーズの多様化に即応できるシステム開発体制の強化が急務であったことなどが挙げられる。

地域の独自性も発揮できるアウトソーシングを選択

5金庫が全面アウトソーシングを選んだ最大の理由は、「日本ユニシスから、共同利用でありながらも、自言継続の経営上のメリットを継承しシステム対応力強化とローコスト・オペレーションを可能とする新たな戦略的基幹系アウトソーシングのビジネス・モデルが提案された。これを実現すれば、地域における独自性を発揮した差別化戦略の立案と、そのタイムリーな実行が可能になると判断したからだ」としている。

日本ユニシスは、2001年4月に約100名からなる開発プロジェクト・チ

ームを編成、各金庫の協力を得ながら、要件定義、オンライン改造、プログラミングに取り組み、本年1月6日に予定通り本番稼働を迎えた。

その間、定期的な連絡会とは別に、日本ユニシスからの進捗状況の説明などを目的に各金庫理事長が直接参加する理事長会が6回にわたり開催され、トップを含めて各金庫の意思統一が充分に図れたことが、予定通りの稼働を成功させた要因という。システムの移行作業は、12月31日から1月5日までの6日間（予備日含む）の年末年始に行われ、約700台の全店端末もWindows対応に入れ替えられた。札幌信用金庫の場合は、石狩中央信用金庫との合併も同時（1月1日付）であった。

「SBI²¹」をベースに、複数金庫対応機能を追加開発

稼働業務プログラムとしては、日本ユニシスが開発した地域金融機関向け次世代基幹勘定系システム「SBI²¹」に、複数金庫対応機能を追加開発するとともに、5金庫によって追加・修正された要求仕様書をもとに、日本ユニシスが全面受託開発したものを使用している。SBI²¹は、すでに朝日信用金庫（東京）での稼働実績を持っている。

また、開発・保守・運用に関する設備は、FISC（財団法人金融情報システムセンター）基準に準拠した堅牢な耐震施設で、機密保護にも万全を期した日本ユニシス・データセンター内に設



稼働祝賀会での5信用金庫理事長（左から窪田、佐々木、松田、山田、岩田の各氏）

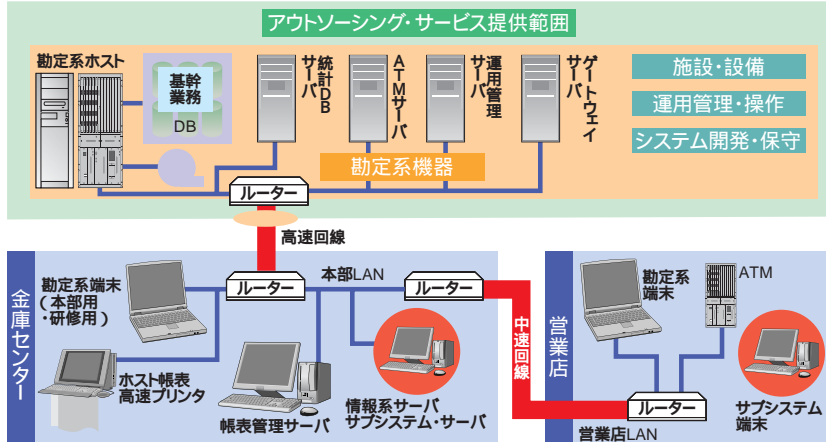
置、共同で利用している。

今回のアウトソーシングは、日本ユニシスと各金庫との個別契約で、受託期間は2003年1月から2008年12月の6年間。なお、本年秋からは6金庫目として北海信用金庫（北海道余市郡）も同アウトソーシング利用を決定している。

アウトソーシングにより期待される効果

今回のアウトソーシング・システムの稼働により、次の効果が期待される。

「勤定系アウトソーシング・システム」全体概要図



今後予想される運用時間の延長や24時間稼働も視野に入れたノンストップ・システムの実現
最新の設備環境と機密保護の徹底による安全対策の強化と、システム開発・保守・運用の品質向上
スケールメリットを活かした投資力の増強による新商品・新サービスの開発力強化、ならびにシステム開発の迅速対応
地域金融機関としての特性を活かした顧客ニーズに即した顧客サービス向上

複数金庫でのアウトソーシングによるコンピュータ投資費用の削減と自営オンライン金庫として培った独自性発揮の継続
開発要員確保をはじめとする、将来における人的不安要素の解消と戦略分野へのIT技術要員のシフト
勤定系システムから配布される情報基礎データベースを活用して、独自情報系システムの同時実現

情報基礎データベースを活用した戦略的情報システムへの拡大を目指す

この勤定系アウトソーシング・システムは、5金庫にとって経営の中核となる基幹システムであり、すべての業務の基盤となっている。
今後参加金庫による

共同研究、共同開発を通じて、さらなる営業店・本部事務処理の効率化と品質の向上を図るとともに、情報基礎データベースを活用した戦略的情報システムへの拡大と内容充実を

図っていく計画である。

ベースとなった「SBI21」の主な特徴

本システムのベースとなった次世代基幹勤定系システム「SBI21」の主な特徴は、次のとおり。

戦略的商品・サービスへの迅速な対応
基幹勤定系業務の分野では、業界で初めて、分析・設計工程にオブジェクト指向技術を採用し、商品開発の柔軟性を確保しつつシステムの開発保守負荷を大幅に削減している。

顧客サービスの向上 24時間365日稼働環境を構築
競争力強化のために顧客サービスの向上は重要なテーマであり、24時間365日稼働を可能とする環境を構築するとともに、新しいデリバリー・チャネルへの柔軟な対応を図っている。

ノンストップ・システムの実現
万一のホスト障害時にも瞬時に切り替えを実施することで、営業店はホスト障

害を意識せずに業務の継続が可能となる。

長いシステムライフの追求

急速に変革し続けているIT技術に柔軟に対応できる仕組みとするために、ネットワークのTCP/IP化実現と、営業店端末機のオープン化のほか、システム設計・開発・テスト・保守なども、すべてオープン系システムで実現。現時点の実行環境(勤定系サーバ)はメインフレームを採用しているが、将来の技術動向に応じてオープン系システムへ移行可能な仕組みとなっている。

月次処理を無事終え、稼働祝賀会を開催

1月の月次処理を終えた2月14日、全金庫理事長をはじめとする関係者が集い稼働祝賀会が開催された。祝賀会では各金庫および日本ユニシス関係者による挨拶、本システム稼働までの経緯や今後の抱負なども披露された。

札幌信用金庫	
所在地	札幌市中央区南2条西3-15-1
代表者	山田 正 理事長
店舗数	42店
役職員数	407人
(2003年1月末現在)	
室蘭信用金庫	
所在地	室蘭市常磐町2-8
代表者	岩田 勝司 理事長
店舗数	26店 1出張所
役職員数	325人
(2003年1月末現在)	
空知信用金庫	
所在地	岩見沢市3条西6-2-1
代表者	佐々木 勲 理事長
店舗数	25店
役職員数	283人
(2003年1月末現在)	
苫小牧信用金庫	
所在地	苫小牧市表町3-1-6
代表者	窪田 護 理事長
店舗数	31店
役職員数	322人
(2003年1月末現在)	
旭川信用金庫	
所在地	旭川市4条通8丁目
代表者	松田 忠男 理事長
店舗数	46店
役職員数	451人
(2003年1月末現在)	